

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、①ある国に有名な陶器師がありました。代々陶器を焼いて、その家の品といえば、遠い他国にまで名が響いていたのであります。代々の主人は、山から出る土を吟味いたしました。また、いい絵かきを雇いました。また、たくさん職人を雇いました。花びんや、茶わんや、さらや、いろいろのものを造りました。旅人は、その国に入りますと、いずれも、この陶器店をたずねぬほどのものはなかったのです。そして、さっそく、その店にまいりました。

「ああ、②なんという立派なさらだろう。また、茶わんだろう……。」と、いって、それを見て感嘆いたしました。

「これを土産に買っていこう。」と、旅人は、いずれも、花びんか、さらか、茶わんを買ってゆくのであります。そして、この店の陶器は、船に乘せられて他国へもゆきました。

ある日のごときでございます。身分の高いお役人が、店頭にお見えになりました。お役人は主人を呼び出されて、陶器を子細に見られまして、

「なるほど、上手に焼いてあるとみえて、いずれも軽く、しかも手際よく薄手にできている。これならば、こちらに命令をしてもさしつかえあるまい。じつは、殿さまのご使用あそばされる茶わんを、念に念を入れて造ってもらいたい。それがために向いたのだ。」と、お役人は申されました。

陶器店の主人は、正直な男でありまして、恐れ入りました。

「できるだけ念を入れて造ります。まことにこの上の名譽はございませんしだいです。」と、いって、お礼を申しあげました。役人は立ち帰りました。その後で、主人は店のものを全部を集めて、事のしだいを告げ、

「殿さまのお茶わんを造るように命ぜられるなんて、こんな名譽のことはない。おまえがたも精いっぱい、これまでにない上等な品物を造ってくれなければならぬ。軽い、薄手のがいいとお役人さまも申されたが、陶器はそれがほんとうなんだ。」

と、主人は、いろいろのことを注意しました。

それから幾日かかかって、殿さまのお茶わんができあがりしました。また、いつかのお役人が、店頭へきました。

「殿さまの茶わんは、まだできないか。」と、役人はいいました。「今日にも、持って上がろうと思っていたのでございます。たびたびお出かけを願って、まことに恐縮の至りにぞんじます。」と、主人はいいました。

「さだめし、軽く、薄手にできたであろう。」と、役人はいいました。

「これでございます。」と、主人は、役人にお目にかけました。それは、軽い、薄手の上等な茶わんであります。茶の地は真っ白で、すきとおるようでした。

【小川 未明「殿さまの茶わん」より】

問1 — 線部①ある国に有名な陶器師がありましたとありますが、この陶器師の性格を表している言葉を文章から二文字で書き抜きなさい。

問2 — 線部②なんという立派なさらだろう。また、茶わんだろうとありますが、立派な陶器の特徴を文章から二つ書き抜きなさい。